

## 東欧SF傑作集



## 東欧SF傑作集 下

ネスヴァードバ他(深見  
弾他訳)/東京創元社(11  
/21刊・¥400)

最近来日したルーマニアの作家、ホリア・アラーマ氏は、フランス語は流暢に話すが、英語は片言程度だった。京都を案内した海外SF研の若いファンも、それでちよつと苦勞したようだ。実際、ルーマニアはラテン系の国であり、仏伊と文化的に近い関係にある。そして、SFも東欧では、先進的位置にあるという。そのアラーマ氏の中編「アイクサよ永遠なれ」が、本書の目玉になるだろう。

惑星アイクサに探査船が着陸する。最初の船は、消息を断ったままだった。そして、空っぽの宇宙船が発見される。惑星全域を覆いつくす森——そこに、どんな秘密が隠されているのか……。斬新とまではいかないものの、骨格のしっかりした、堂々たるSFである。

さて、この下巻には、ほかにチェコ、東独、ユーゴ、ルーマニアの各作家、計九編が収録されている。チェコの、ネスヴァードバやチャベックらは、日本でもよく知られている。ネスヴァードバ「ターザンの死」からは、著者の資質が十分に読み取れるだろう。そのほかでも、東ドイツのハードSF「金星最後の日」、ユーゴの「消失」など、面白い作品が多かった。収穫である。(俊)